



学校だより

令和5年4月28日
横浜市立仏向小学校

5月号

手を添える優しさ

校長 大嶋 智子

4月、入学間もない1年生の教室で、ドキリとしたことがありました。それは、給食時間の終り頃から交代で手伝いに来てくれていたある6年生の姿でした。斜め横にいる1年生の背に合わせて身を低くし、片方の手は1年生の背中側にそっと添えていました。そして、首を傾げ1年生に視線を合わせて、声をかけていました。困っていた1年生の顔が、パアッと穏やかな表情に変わった瞬間でした。ドキリとしたのは、6年生児童の私が見たことのないような意外な表情と仕草です。1年生の前では、本来の優しさを表現できていたからです。そこには温かな空気が流れるのを感じました。



4月25日には、校庭で全校児童が一同に会して「1年生を迎える会」を開催しました。コロナ禍で、全学年で集まって実施したのは4年ぶりのことです。全校児童が揃うというだけでもワクワクしていました。今年の迎える会では、6年生が1年生の手を握って、入場してきました。幼児期には喜んで手をつないだ

子どもたちですが、高学年になると手をつなぐことに抵抗を感じてしまうものです。ましてや、コロナ禍でのソーシャル・ディスタンスにより、接触を避ける生活が長く続いたため、なおのことです。どこか恥ずかしい気持ちや慣れない感触を乗り越え、高学年としてリードする姿は、とても誇らしく見えました。そして、そこには、優しいまなざしと、優しく添えられる手があちこちで垣間見えました。人を思いやり、人のために行動できる最高学年としての姿でした。

高学年児童が会を進行する様子や各学年からの歓迎メッセージを、1年生は、目をクルクルさせながら見入っていました。優しくされたことや学校の仲間入りを喜んでもらえた経験は忘れず、これからの不安な気持ちを取り除いていってくれることでしょう。

1年生を前にした2年生以上の子どもたちの立派に成長した姿や表情にも、感動を覚えました。1年生は、上級生をお手本にし、お手本にされる上級生は下級生への相手意識が、それぞれの心の成長に繋がっていている様子です。



これからも様々な体験学習や集団活動、たてわり活動などを通して“人を想う”ことができる教育活動を積極的に進めてまいります。よろしくお願いいたします。